

武商工議発第18号
平成21年5月19日

財団法人 武蔵野市開発公社
理事長 伊藤 隆造 殿

武蔵野商工会議所
会頭 稲垣 英夫



伊勢丹吉祥寺店閉店に伴う新テナントの誘致について(要望)

新緑の候、伊藤理事長におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃から、当所の事業運営につきましては、いろいろとご協力をいただきありがとうございます。

さて、このたびの伊勢丹吉祥寺店の閉店の話は、まさに寝耳に水のことであり、出店以来吉祥寺の商店街と競合することなく、まちの発展に多大な貢献をされたことを思うと心が痛みます。

閉店のニュースは、多くのお客様にも衝撃を与えたようで、「閉鎖反対の署名活動をしたくらいショックです」、「30年以上も利用してきたのにびっくり、がっかりです」等々、新聞には、数多くの閉店を惜しむ市民の声が掲載されていました。

伊勢丹は、昭和43年に都市再開発の核として、地元商店会、会議所等の意見をもとに一流デパートの誘致がきまり、貴公社のテナントとして出店し、以降まちの活性化、レベルアップ等大規模店としての役割を十分に果たしてきました。

平成19年3月に策定された武蔵野市の「吉祥寺グランドデザイン」においても「巡る楽しみがある街」、「上質な買い物環境のある街」として伊勢丹等大規模店への期待は非常に大きなものがありました。

都内では有数の商業集積地としての吉祥寺は、全国的にも知名度が大変高く評価されている一方、昨今は急速に近隣都市の商業開発の波に押され、極めて危機的な状況に陥っていると考えられます。

近い将来、JR吉祥寺駅舎の改修をはじめ、南北自由通路の計画、京王井の頭線の駅ビル建て替え等々、吉祥寺のまちは大きく変わろうとしています。

このような時期に伊勢丹の閉店は、誠に残念なことです。灰聞するところでは、貴公社には、既に複数の企業からの入居の打診があったと同っております。

新テナントを誘致するには多くの課題があると思いますが、将来に禍根を残すことのないよう、テナント選定には、市当局をはじめ、商工会議所、商店会等関係者および消費者の意見を参考に、住みたいまちナンバーワンの吉祥寺(武蔵野市)に相応しい街のグレードをさらに高め、品格があり、かつ、集客力のあるテナントの誘致をぜひお願いいたします。

今後とも、まちの活性化のためにお力添えくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。